



## 【先週のイースター・メッセージより】 ヨハネ 11:25

### 「わたしはよみがえりであり、いのちです」

#### 1) イースターは何の日ですか？イエス・キリストが死んでいたのによみがえったことを記念する日です。

聖書は、「死人のよみがえり」を信じるのが決して簡単なことではないことをはっきりと示しています。しかしキリストは、なかなか信じるができなかった弟子たちに繰り返し現れては、ご自分が生きていることを示され、ついに弟子たちは復活を確信するようになり、命がけでキリストの復活を世界中に伝える人となっていったのです。

#### 2) 何で嬉しい日なのですか？イエス様を信じる人は、死んでも生きることができ、死は終わりではなく、永遠の命を与えられるから。

神さまは、イエス様を信じる人に、イエス様と同じように「よみがえり」と「永遠の命」とを約束しておられます。人は死が終わりでないことが理解できた時に、初めて、今与えられている命と人生を喜びと感謝をもって大胆に用いることができるようになるのです。

#### 3) イエス様を信じるって、どういうことですか？イエス様が自分の罪のために十字架に架かって死なれたことを信じ、イエス様に従うこと。

神さまの前に「良い行い」を積んでもそれは喜ばれません。善行によって救われようとする、その行いは結局、自分のためになってしまい、自己中心的な生き方から自由になれないからです。神さまはその代わりに、イエス様の十字架を信じる者たちに「ただ」で赦しを与えてくださいます。感謝して受け、イエスに従う決心をしましょう！

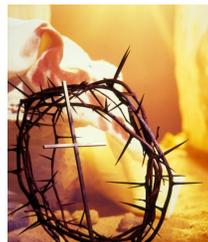
## 【先週の礼拝メッセージより】 ヘブル 12:1~12

### 「喜びゆえに苦難を耐え忍ぶ」

- クリスチャンの成長の目標点は、主イエス様のようになることです。そのためには、主イエスから目を離さないよう、福音書をよく学び、常に What Would Jesus Do の質問を自分に問いかけるようにしましょう。
- 主イエスは「喜びのゆえに」十字架の苦難と死を耐え忍ばれたと書い

てあるのですが、では主にとっての喜びは何でしたか？ 1) 何よりも父なる神の御心が成し遂げられるという喜びでした。2) 十字架の身代わりを通して全世界の人々が神に立ち返るようになることを知った喜びでした。3) 人々が永遠の命を受け、ご自分の花嫁となることを知った喜びでした。主イエスはこの喜びを確信して苦難に臨まれたのです。

●神さまは多くのすばらしい約束を私たちにくださっています。既に実現していることもあります。これからの約束の方がはるかに多くあります。それらの約束が必ず実現することを確信し、喜ぶことによって、目の前に置かれている困難に立ち向かっていくのがクリスチャンです。



### 【人間関係／赦しに生きること】

●人を心から赦すことは難しい。しかしよく言われるように、もし私が誰かを赦せないなら、縛られているのは私である。相手は私を傷つけ、不当に扱った事などつづく昔に忘れてしまっている。損しているのは私だけ。世の中には警察沙汰にするわけはいかなくても生活に否定的な影響を及ぼす問題はあまたとある。自己中心な人がいる限り、問題はなくならず、赦しに生きる道を見いださない限り、平安を得る方法はない。しかし「いいよ、いいよ」と単に「水に流す」だけでは被害者は泣き寝入りとなり、正義が立たない。

●だからこそ私は「十字架」の元に行き、そこで自分の罪のために裁きを身代わりに受けられたイエスを仰ぐ。そこに居続ける時、私は神の赦しと恵みの中で自分の真の罪深さと向き合うことができる。そして自分の罪深さと赦しの大きさを理解した分だけ、私は人に対して寛容になることができ赦せるように変えられていく。

●さらに十字架の元に居続ける時イエスが相手の罪のためにも死なれた事が見えてくる。神は必ず悪を罰せられる方、十字架を通して神が下さる「義」をいただく以外何人も神の裁きを免れないことを知る時、私は裁きの恐ろしさも知る。その時、私は相手もイエスを見上げて救われるようにと、初めて願うことができるようになる。

●世界平和は一人一人から始まる。キリスト者は赦しを宣言し、報復、仇討ちに終止符を打ち、平和を生み出す神の器となるのである。世界平和の最初の一步はあなたが赦しを実践するところから始まるのである。